

令和3年度 第2回磐田市行政経営審議会 議事録

日 時 令和3年8月24日（火） 18時30分から20時30分まで

出席者 委員12名

秋元富敏 委員、浅野真人 委員、井上佳子 委員、岡本一夫 委員
杉本達男 委員、鈴木敦之 委員、高柳裕久 委員、竹内育代 委員
寺澤達也 委員、永井新次 委員、村上勇夫 委員、鷲崎早雄 委員
事務局（企画部長、秘書政策課長、秘書政策課グループ長）

進行：秘書政策課長

1 開 会

2 定足数の確認

3 会長あいさつ

4 議事

- ・第2次磐田市総合計画後期基本計画（案）について分科会での審議
分野1、分野2、分野3

5 その他

6 閉会

分野1 産業・雇用・観光・移住定住

A グループ

杉本委員 高柳委員 竹内委員

現状と課題 この分野の方向性

【ウィズ・アフターコロナ】

○5年間はコロナの影響がある。5年という短期の中ではコロナ対策を集中的に進める必要がある。アフターコロナを意識した施策を明確にしてもいいのではないかな。

【雇用】

○建設・介護などは求人超過の状態であり、雇用のミスマッチも見られる。スキルが高い人材が求められているので、ウィズ・アフターコロナには、スキルを向上させるような取組み（リカレント学習、リスキリング）が必要ではないかな。

○専門職の確保が難しい状況なので、確保のための具体策を盛り込んでどうか。（働いている方を守るような取組）

基本施策3 産業を担う人材の育成・就労の支援

○書きぶりをもう少し強くできないか。近隣大学や外部との連携をしっかりとつくることや、ネットワークの強化を打ち出していくべきではないかな。

○若者・女性の就労を支援するためには、大学生の就労の支援が必要ではないかな。

○地元大学の定住を推進する視点を入れてみてはどうか。

○産業フェアなど、地元の学生に地元の企業を紹介する取組は入れたほうがよいのではないかな。

○姉妹都市のマウンテンビューはシリコンバレーにある。浜松でもFUZEというインキュベーションセンターの取組がある。スタートアップ・起業の参考にできるのではないかな。

基本施策4 交流人口の拡大と商業・サービス業の活性化

○にぎわいがある場所をつくるためには、若者向けの仕掛けが必要だと思う。

○観光交流客数や北口広場のイベント日数は、アフター・ウィズコロナを考えると人を呼び込むだけでなく、目先を変えたような指標の方がよいのではないかな。

基本施策5 ブランド力の強化とシティプロモーションの推進

○「ブランド力の強化」は市が取り組む内容なので、分野1としてはどうなのかと感じる。ただし、移住・定住につながる部分ではあるので、取組みは必要である。

○目標値が見当たらない。

基本施策6 移住・定住の推進

- 定住促進には高校生くらいまでを対象に磐田市の地元資源の魅力、地元大学を卒業したあとの就職先や、定住していける事例紹介をする取組が必要ではないか。
- 空き家の活用に力を入れてもらいたい。移住定住につながる部分でもあるし、周辺市町と比べても弱いと感じている。
- スタートアップ、起業などITも含めた製造業以外の企業誘致は移住、定住施策との関連も大いにある。
- ウィズコロナに対応し、人の動きにマッチした、変化をとらえた施策が必要だと感じている。

その他

- 産業フェアの記載がない。商工会議所や企業と一緒に取り組んでいる事業があるので、記載してはどうか。
- 産業の差別化として、「磐田ならではの」ということで、スポーツの成長産業化を明確に打ち出したほうがよい。スポーツ産業につながる材料が多くある。(学校、企業)
- 分野ごとのコンテンツは横断的な取組が必要。食・スポーツ・農業・産業、横のつながりを持って取り組んでいくことが重要。(静岡産業大学や農林環境専門職大学など、磐田市のポテンシャルは高い。)
- SDGsの推進について、市としてどのように推進していくか具体的に記載すべきだと思う。
- SDGsを進めるのであれば、推進の仕方、市民に届く見せ方、姿勢が見えるような見せ方を工夫してもらいたい。アイコンを付けておくだけでは事業内容とSDGsがどのように関連してくるのかわかりにくい。
- DX(デジタル)人材の育成、社会人のリカレント教育を盛り込んでどうか。

分野2 自治・スポーツ・文化・歴史・共生

B グループ

浅野委員 岡本委員 鈴木委員 村上委員

基本施策2 スポーツの振興

○東京オリンピックにおける、卓球の「水谷選手、伊藤選手」の活躍は素晴らしく、磐田市にとってもPR効果は高かった。例えば、磐田市親善大使への起用や選手名を冠に付けた大会の開催、オリジナルTシャツの作成など、2人の知名度を生かしたシティプロモーションを進めるべきである。

基本施策3 文化の振興と歴史遺産の整備、活用

○来年度「新しい文化会館」が開催するのに合わせて、西部地区高校によるプラスバンド大会の開催や子どもの音楽コンクールの誘致などを検討して欲しい。完成した初年度が市内外にアピールする良い機会であると考えます。

○施策と主な取組みとして「2 文化・芸術に触れる機会の充実を図ります」があるが、歴史を加え、「2 文化・芸術・歴史に触れる機会の充実を図ります」に修正するべきである。本市には歴史ファンが多いので、歴史ツアー等を開催し、子どもが現場に行って学ぶ機会をつくってほしい。

基本施策4 学習機会の充実

○施策と主な取組みとして「図書館の充実を図ります」があるが、「ひと・ほんの庭にこっと」は様々な機能がある非常に充実した施設であり、これ以上を求めるのは難しいと考えている。施設自体は非常に素晴らしいものであるため、もっと市民に知ってもらふことが必要である。

○施策と主な取組みとして「関係機関と連携した図書館サービスを展開します」と記載されている。市立図書館にない書物であっても県立図書館や国会図書館の蔵書から探し出せるような連携を検討して欲しい。

基本施策5 共生社会の確立

○多文化共生に関する市の担当は、国際交流協会は地域づくり応援課、姉妹都市は市長公室であり、所管部署が異なっている。庁内で、調整を取った方が良いと感じる。

○コロナ禍ではあるが、オンラインでの国際交流をもっと進めていくべきである。最近の若者はオンラインでの交流に抵抗が少ないので、若者世代から交流を始め、徐々に上の世代にも広げていく方法が効果的なのではないか。

○多文化共生は単なる交流だけではなく、人口減少対策にも繋がっている。外国人を人口増加の戦力として考え、日本人だけでなく、外国人にとっても暮らしやすいまちづくりをすることが重要である。

○外国人が地域の祭りに参加することで非常に盛り上がっている地域がある。外国人市民を増やし、交流を促進することは、磐田を元気にする活力になるのではないか。

その他

○磐田市には市民が自慢できるものがたくさんある。人気アニメ「ゆるきゅん」の舞台になった見付天神や竜洋海洋公園オートキャンプ場が良い例である。地元の自慢話を市がまとめ「磐田のネタ帳」として作成したものを市民に提供することで、市民は地元で自信を持つことができるし、市外への情報発信を担ってくれるのではないか。

○磐田市には「高校生まちづくり研究所」という高校生がグループワークをする中で、磐田市にまちづくりの提案をする事業がある。磐田市が抱える具体的な課題を高校生に提供し、若い柔軟な発想力で検討してもらってはどうか。

分野3 子育て・教育

C グループ

秋元委員、井上委員、寺澤委員、永井委員

現状と課題

【不登校児童の高まりについて】

- 不登校児童生徒を支援する施設である「あすなろ」は通所と自宅への訪問支援との支援の組み合わせはいいと感じている。
- 不登校、いじめ、生活困窮の理由はどんなものがあるのだろうか。コロナ禍で学校や行事が縮小されていることがプラスになっている子どももいる。

【ICTの活用】

- 磐田市はLTE対応ができているのが有意義な点だと思う。
- 宿題や課題など、タブレット等を活用することになっていくと、家庭と学校が慣れていくまでは大変だと思う。活用方法が見えやすいといいのではないか。
- 教育現場は、板書型中心だったものから、機器を活用したスクリーン方式を取り入れている。ICTを主体的に上手に活用し「デジタル＋アナログ」が重要になってくる。
- 生徒のICTではなく、「先生と保護者」、「先生と先生」など総合的に活用してほしい。
- ギガスクール構想について、後期の5年間でどこまでできるか。指標の計り方も歴史がないので指標比較が難しいのではないかと思う。

この分野の指標・目標値

【指標について】

- 全体的に目標値をもう少し高くしてもいいのではないか。
- 市民のわかりやすさの配慮を考えて「GIGAスクール構想」の言葉の定義がほしい。

基本施策1 子ども・子育ての支援の充実

- 相談という行動に移すことができない人が多い。そのための施策がほしい。
- 外国籍の人たちとの共生を考えていく必要がある。就学前からの教育が重要である。
- 幼稚園・保育園などと小学校の連携も深めていきたい。
- 子どもの貧困と実態把握とあるが、貧困は見つけにくいと思う。
- 現場では「延長保育や一時預かり」などやっても、市民満足度につながっていないこともある。「主な取組み」に即効性がある事業を入れることが必要だと思う。保育士不足解消施策を入れてもいいのではないか。

○発達支援の相談については、需要が多く相談まで時間を要している。相談体制強化のための具体的な取り組み事例をわかりやすく表現していけないだろうか。

基本施策2 特色ある教育の推進

○いろいろな職業の方に体験学習など協力してもらってもいいのではないか。

○外で遊ぶ機会を増やす施策はどうか。放課後の学校開放など環境を整えてあげることもできないだろうか。

○防災教育は、自分たちで考えさせる行動ができる教育を推進してほしい。

基本施策3 子ども・若者の健全育成

○意識やアンテナが高くない家庭への、アプローチの方法を考えてほしい。

○放課後児童クラブではない、地域で遊べる場所、児童が過ごす場所が必要となってくると思う。